

緑の地球ネットワーク

2018 春の黄土高原スタディツアー 体験記

2018.4.14 ~ 4.19



認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク

〒552-0012 大阪市港区市岡 1-5-24-303

TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182

e-mail : gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://gen-tree.org>

facebook <https://www.facebook.com/genfcbk/>

【日程】

4月14日(土)	朝、出発。昼、北京着。バスで河北省張家口市蔚県へ	英豪国際酒店泊
15日(日)	蔚州博物館、暖泉鎮参観	//
16日(月)	代王城鎮で起工式、マツを植樹。小学校で交流	//
17日(火)	蔚州樹木見本園起工式と植樹。壺流河沿いの湿地見学。 午後、蔚州古城見学。	//
18日(水)	南張庄村で切り絵工房見学。午後、バスで北京へ。	北京21世紀飯店泊
19日(木)	北京空港へ向かう。帰国	

(読みがなは原則として日本語の音読みをあてました。)

【参加者名簿】

今田 純一
岡 和希
唐戸 ティニヤットクイ
タカタ
高見 邦雄
鶴田 惇
東川 貴子
前中 久行
山本 順子
山本 隆明

【中国側スタッフ】

蔚県

殷曉霞 (共青団蔚県委員会書記)

柳柳楊 (ボランティア)

李志剛 (共青団蔚県委員会)

郭艷紅 (旅行社ガイド)

北京

劉宇紅 (中国国際青年交流センター通訳)

● 4月14日（土）晴

【東川貴子記】

今回は総勢10人とこじんまりした団になった。その分みなさんに密度の濃い体験を楽しんでいただけたと思う。

さて、朝最寄り駅を始発で出発して梅田から満員のリムジンで空港へ。あらかじめうかがっていたように時間から少し遅れて全員集合し、チェックイン。今は自動化されていて、みんな機械ですませることになっている。その後カウンターで荷物を預ける。自動チェックインの意味があるのか、よくわからなかった。

このあとけっこう混雑してきて、ゲート到着まで時間がかかり、待ち時間もほとんどなく搭乗。飛行機はよく揺れたが、だいたい時間どおり到着。到着客は珍しく少なかったようで、入国審査はいつもより早かった。

12時過ぎ、到着ロビーで通訳の劉さんと運転手の魏さんと合流するも、先に着いているはずの鶴田さんがいない。たぶん関空便到着予定時刻から1時間後、12時20分ぐらいには現れるはずと思いながら探したがみつからず、12時20分、いつもの場所に戻るといきました。まあよかった。

バスまでは連絡通路を歩いて移動。バスが小さいからいつもと違うところに駐車したのかどうか、よくわからなかったが、車にハラハラしながら道路を渡らずにすんでよかった。

12時30分過ぎ、空港を出発。北京はポプラも柳も緑の若葉で、レンギョウや桃も咲きそろい、すっかり春の粧い。そこから先は寝てしまって、いつ高速を下りたのか、気づいたら国道109号を走っていた。街路樹にはまだ葉がなく、北京とは違う。と思っていたらアンズの花が現れた。五分咲きぐらいだろうか。明後日から気温が上がる予報だからもっと開くだろう。楽しみだ。

15時30分、渋滞にはまる。劉さんのスマホのmapによると、あと82km。運転手の魏さんによると、来るときに交通事故があったが、その時はまだ動いていたらしい。事故の後始末に時間がかかりすぎ。久しぶりに石炭トラックの行列を見る。こんなところを走っていたんだ。今はみんな行儀よく、荷台にかけたカバーは天井がちゃんと水平になっている。昔は積めるだけ積んで、カーブや段差でこぼしたりしていたものだ。

さて車は対向車線に入るも少し走っては止まるをくり返し、結局完全に渋滞から抜けるまでに2時間かかった。

そこから魏さんは飛ばす飛ばす。中国はいたるところにカメラがある監視社会かと思えば、やはり粗密はあるのだろう。ところどころスピードを落としてネズミとりに注意しながら、18時40分ごろに英豪国際酒店に到着。そういえば、車には車載カメラが4台もついていました。びっくり。

ホテルにチェックインし、部屋に荷物をおいて、19時から夕食。張家口市共青団書記の温さんによるあいさつのあと、食事を楽しむ。

渋滞は予定外だったが、まあ安全にホテルにたどりつきました。

明日からよろしく願いいたします。

【山本順子記】

いよいよ2018春の黄土高原スタディツアーの出発です。大阪出発組は5人、関空発

CA162 便、定刻より 10 分早く、8:50 発でした。7 時過ぎに関空 4 階の出発ロビーに集合して搭乗券発券、荷物預、出国手続等であつという間に時間がたち、搭乗ゲート前に着いたのは 8 時半頃。すぐに搭乗が始まりました。ほぼ満席。途中気流の悪いところがあり、やや揺れました。

11 時半、北京空港到着。

12 時 東京からの 1 名と合流して蔚県に向け 12:25 バスで出発。通訳の劉さんと運転手の魏さんを含めて、総勢 8 人、マイクロバスでした。

まずは昼食。パン、ソーセージ、鶏肉、卵、リンゴでおなかを満たし、しばらくは食後の昼寝タイムに入りました。

15 時頃、反対車線のトラックが渋滞。たいへんだなあと思って見ていたら、30 分後にはこちらの車線もストップしてしまいました。しばらくは列に並んでいましたが、トラック以外の他の車がトラックの横の真ん中を走り始め、私たちの乗っているマイクロバスもその列の中に入りました。中国では、交通渋滞が起こったときはトラック以外の車はこのように道路の中央を走ることがあるそうです。

渋滞を抜けたのは 17:30。約 2 時間、完全ストップ、のろのろ運転の繰り返しでした。その間車窓から見たこと。

1. アンズの花がいっぱい咲いている。2. 黄土高原の中を道路が横切って通っているのがよく分かった。3. 風が強く、道路に沿って「防火」の旗がずっと立っていた。4. 停まっているトラックのタイヤを見ていたら、溝が浅くなっていて、日本なら絶対車検に通らないだろうと思った。荷台の下にあった予備タイヤはゴムの中から一部土台の白い部分がのぞいていた。

18:30 ホテル到着

19:00 ホテル 2F の一室でセレモニーが蔚県の関係者 5 名 (?) 共青团 2 名、21 時までなごやかにもたれました。料理はいろんな豆腐料理、粟など、とてもおいしかったです。

これで 1 日目終了です。

● 4 月 15 日 (日) 晴

【山本隆明記】

7 時朝食。蔚県名物の小米稀飯 (粟のお粥) がとてもおいしい。いろいろな豆類を使った糊糊 (穀物スープ) もあった。私は葷包子 (肉まん) も油条も食べたが、これもおいしかった。

7 時 30 分、全員でホテルから 10 分ほどの文化公園に行く。人口 52 万人の蔚県にしてはたいへん広い公園で、朝早くから多くのグループが太極拳やダンスなどを楽しんでいる。我々の目的は朝市で、公園の北側の広場に沢山の店がでていた。

小米、紅豆、大豆などの雑糧 (雑穀)、肉、魚、果物、野菜、調味料、中葯 (漢方薬)、日用雑貨などで、蔚県の産品だけでなく、他地域の産品も豊富だ。特に果物は南の芒果や西のハミ瓜なども見られた。ダンボール箱を使った長距離のトラック輸送が可能になったからであるが、人々の食生活がより豊かになることはいいことだと思う。

9 時、ホテル出発。ガイドは郭艶紅さんで、蔚県博物館に。この博物館も人口 52 万人の蔚県には似つかわしくないほど立派な博物館で、省立博物館といわれても恥ずかしくないよ

うな内容だった。博物館内の案内は館内ガイドの武瑜琨さんで、とても丁寧で判りやすい説明だったが、なにせ旧石器時代から明清の時代まで全 5600 余りの文物とその解説、2 時間余りの見学ではとても見きれぬものではなかった。ほとんどがこの 30 年間に発掘、発見された当地の文物で、国宝レベルのものも多数あり、ぜひとももう一度来て見たいと思わせる博物館であった。館蔵図録がまだ作られていないのも残念である。

博物館の一角に“蔚県剪纸”が紹介されていたが、18 日に剪纸見学に行くのでここでは割愛。

12:00 ホテルに戻り、昼食。さながら蔚県農業博物館に行ったかのような、ご当地の食材を使った料理が次から次へと卓上にあがる。料理名は判りようがないが、食材は隣に座った張さんに逐一聞いてみた。花生、豇豆、黄豆粉、香椿、豆腐皮、豆腐干、蒜苗、蚕豆、韭菜、黍子（黄米）、燕麦、鶏肉、猪肉（豚肉）、羊肉など。この他いろいろの野菜があったと思うが、よく判らない。蔚県はもちろん、米も少し作ってはいるが、雑糧（雑穀）が多く、品質もいいようだ。特に小米（粟）は以前朝廷に貢納されたことで有名で、“蔚州貢米”と呼ばれ、“中国四大名米”の一つとされているとのこと。昼の食事に小米がでてきたのか、よく思い出せないのが残念である。

食事の後聞いた話だが、蔚県のことを紹介する意味も含めて、当地特有の料理を出しているが、人々の日々の食事が全てこのようなものであるという訳ではないとのこと。

2 時出発、暖泉鎮に向かう。30 分ほどで到着。3 時から西古堡で舞踏劇《天下第一堡》を観賞。石頭と杏花という若い男女の恋愛を描いたものだが、ストーリーがもう一つよく判らない。劇中では蔚県の民間伝説、民間芸能を多数取り込み、最後に当地最大の伝統的パフォーマンス“打樹花”でフィナーレとなる。劇のストーリーはともかく、蔚県が見せたいものを全部見られた感じで、飽きることなく楽しむことができた。特に“打樹花”の鉄の火の粉が花火のように城門に降り注ぐ様子は、たいへん壮大で美しく、見ごたえのあるものであった。劇中にねずみの集団舞踏があり、何のことが判らなかつたが、後で、あれは豊作を祝う踊りで、ねずみ達が農民の豊作を“ご同慶の到り”としてともに祝うものだと教えていただいたが、とても面白い民話だと思った。

4 時ごろから暖泉鎮の西古堡の町中を散策。もともと北方からの軍事的圧力に対する防御的機能を有する城壁を持つ町で、北方の少数民族と南の漢族との間で繰り広げられた抗争の歴史が色濃く残されている。明清の時代は比較的安定していたようで、晋商の影響下、発展した町の様子が、よく保存された仏閣、廟、豪商らの邸宅、庶民らの住居から感じ取られた。またトランプをする老人達や、何かの練習に励んでいる子どもたちなど、庶民の生活にも触れることができ、楽しい散策となった。

6 時半ごろ暖泉招待所で夕食。新たに岡さん、唐戸さんも加わり、白酒の乾杯、乾杯で盛り上がった。最後の追加でたのんだ餃子がとてもおいしかった。

【鶴田惇記】

朝食前に近くの市場へ。肉、果物、茶、文房具 etc. …。久しぶりの活気ある中国の市場にワクワクする。中でも目を引いたのが“減肥果”（やせる果物茶）。何の果物か気になりたずねてみるが、答えは“減肥果は減肥果”だということ。10 元分購入した。日本で原理解明したら億万長者か？

朝ごはんは“蔚県珈琲”を飲み、午前中は蔚州博物館へ。昨年春に引き続き2回目であるが、残念ながらどれもほぼ初耳に感じる。唯一覚えていたのが“中国一古いBBQの絵”と“トイレと豚小屋”。帰り際に本を買おうとすると店員さんはもうお昼休憩。そう、この自由さ！ 社会人3年目になるが、忘れかけていたものを見つけたと感じた。

午後は、昨年春はタイミングがあわなくて見られなかった打樹花の演劇である。劇の中で、馬やヤギが実際に登場したのには驚いた。ストーリーは恋愛もの。一部よくわからないつなぎ目もあったが、メインで打樹花があり、ダンスや雑技は見ごたえがあった。高見さんの話では、打樹花の鉄投げ師は後継ぎ募集らしい。興味ある。

その後、県の西方約10kmの温泉、西古堡を見学。中でも印象に残ったのは、白酒の量り売り。38° 20元/斤、42° 30元/斤、52° 35元/斤、60° 50元/斤、80° 100元/斤。60°と80°を試飲させてもらった。ここの白酒は“甜”と店長は言う。80°を口に含みながら甜の要素を探す。辣しか見つからない。

サントリー労組から2人加わり夕ご飯。ルームメイトのタカタさんから、「中国での仕事では宴会の席で気が抜けない。白酒を飲むけど気は張りつめている」と聞いた。この場にいる中国の方々には、共に植林する仲間として飲み場では楽しく飲んでもらいたい。

白酒の酔いを“減肥果”のお茶で醒ましながらかこの日誌を書いている。明日は本番の植林。張り切って臨みたい。

今日食べ過ぎた分は減肥果のお茶の効果でゼロになっていると信じて…。おやすみなさい。

● 4月16日（月）晴

【唐戸ティニャットクイ記】

昨日の移動のおかげで、朝までぐっすり眠れた。

カーテンを開けたらAM7時前とは思えないくらいまばゆい光が射し込んできた。1日のスタート、ワクワク！！

7時半ごろ、ホテルにて朝食。野菜が多く、あっさりとした味だったため、箸が進んだ。名前がわからないが、多肉植物のサラダが、ほんのり苦くて瑞々しく、個人的にはお気に入りの一皿だった。明日は、今日食べられなかったメニューにトライしてみようと思う。

さて、9時前、バスに乗って植樹の場所に向かった。

バスの窓から見える羊の群れと、空と大地が交わる地平線を見ながら、改めて中国という広大な国に圧倒されつつ、この地で25年以上にわたった活動を続けてきたGENさんに敬意を表したいと思った。

植樹現場では、現地の農家の皆さんが既に準備をして待ってくれていた。スコップを手に取り、穴の中に入れられた苗の根元に土をかける作業をひたすら繰り返した。

はじめはぎこちなかったが、慣れてくるとなかなか面白く、スイスイ進み、周りの方々にも「上達したね」と誉められた。と言いつつ、運動不足の体にはやはりキツイ作業だった。明日のためにも今日はしっかりマッサージして、なるべく疲れを残さないようにしようと思う。

現地の方々とは言葉が通じなかったが、笑顔とボディランゲージと時々通訳により、なんとかコミュニケーションをとって終始なごやかな雰囲気の中で作業をすることができた。

この時間で「差不多」という中国語を覚えた。意味は「まあ、大体そんな感じ」というニュアンスの言葉だ。細かいことは気にしないおおらかな中国人を表す言葉のようで、何だか気に入ったので、これだけは覚えて帰ろうと思った。

昼食を済ませた後は小学校に移動し、子どもたちと先生方と交流した。子どもたちは歌で歓迎してくれたが、小さな体から発せられるパワーのある歌声に圧倒され、子どもたちの中に宿る並々ならぬエネルギーを感じた。物にあふれていない環境で生まれ育ったからだろうか、目の前にあることを純粹に楽しみ、一生懸命になって取り組む子どもたちを見て、考えさせられるものがあった。

今日は私にとって、このツアーの初日であったが、多くのことを感じさせられ、非常に濃厚な1日だった。明日は植樹と蔚州古城見学、明後日は切り絵の村見学が予定されており、どれも楽しみだ。

【今田純一記】

本日も好天気。今日から2日間は午前中だけの植樹活動日となる。ここ蔚州の地は中国古代理春秋時代の小国、代国の故地である。現在の蔚州はいわば県庁所在地であるが、代国はその東北方向へ約10km離れたところにその王城（首府）を置いていた。2016年から始まった河北省での緑の地球ネットワーク（GEN）の主要な活動地区は、その代国の故地“代王城”である。

※代国夫人の哀話は司馬遷の「史記」に書かれていると、蔚州博物館内に解説してあった。

活動の当初からの我々の拠点となっているホテル（英豪国際酒店）で、出発前に高見さんの部屋でミーティングがあり、当プロジェクトの立上りの経過と見込み及び心得等について前中代表と高見副代表から説明があった。

(i) 代王城鎮には元の耕地で現在は空地になっている土地が約100ヘクタール（中国の度量衡では公頃〔コンチン〕）、そのうち70ヘクタールが緑の地球ネットワーク（GEN）に任せられていること；本日植樹するのはアブラマツであるが、山西省大同市でも成功した杏（あんず、apricot。果実用ではなく、中国の漢方薬などに使われる杏仁採取用のあんず）も当地で植えつつあり、榆（にれ、elm-tree）やはしばみ（hazel）、かじのきも候補。

(ii) ここから少し離れた場所で、玉壺湿地公園（玉皇閣の北側）のある壺流河流域7.5ヘクタールも協力予定地で、ここは明日我々が行く。なお、そこは日本の経団連自然保護基金からの助成金が充てられる場所。

(iii) 北京市に近い当地は、共産党員の出世コースでもあり、しばしばGENの協力相手である共青团蔚州委員会の書記が昇進して人が替わるのが悩みでもあり、やりがいでもあること。

(iii) 前中代表からは特に苗木の根を包む土の付け方に注目して、根の付け根をビニール紐で固く縛ってあるようなら、根の成長と水分の浸透の邪魔になるので、用意してある鉢で切り離すようにとの話があったが、これは杞憂に終わった。

というのも、9:00amの作業開始に先立って行われた起工式の時の現地側の職員の挨拶にあったように、蔚州での緑化活動は既に2002年にスタートしていて、現地の植樹担当者（実体は農民や元農民とその家族たち）も手順に熟練しているようであった。当日夕の食事会の時、前中代表が今までの植樹の中で、本日のやり方は最高レベルであったと述懐された。

植樹に車で到着してみると地元の人が大勢集まっていて、既に植え穴が整然と掘られており、傍にアブラマツの苗木が並べられていた。おそらく十年物と思われる。予定時間より早く作業は終了した。

昼食は、鎮（県の下部組織だが、ここでは村と言ってもよい）の共同祭司施設（早い話が結婚式場兼祝宴施設）で供応を受けた。多くが地産地消の野菜・山菜であるが、中には他郷産の西瓜や、サージ（あきぐみ）の実を搾って作ったジュースも出されて恐縮した。ここは四美軒という食堂の裏側にある。

食後、鎮の中をゆっくりと見物する時間があった。黄土高原に相応しい土の煉瓦や土壁、さらには糞便貯蓄式の、昔と変わらない便所も“鑑賞”することができた。ただし傍に駐車している乗用車のみが昔と違う景色である。

14:30～16:00 代王城鎮中・小学の小学校で生徒（中国語では学生とか児童という）たちとの交流の時間。

今朝のミーティングで高見副代表から最年少のT君が学校においては日本側の“代表”に“任命”されていた。彼は中国語が大変よくできる上、外向的で、酒が人並み以上に飲め、かつ同年代の中国青年ともすぐ友達になれるという異才の持主である。

学校に入って、まず、一行と校長以下の先生たちとの顔合せから始まり、音楽教室でアコーディオン合奏と合唱を聞かされた。困惑したことは、日本の歌「さくら」（無論中国語）を聞いた後、我々にも振られたことである。「さくら」の日本語の歌詞を全部歌える人がいなかったのである。

その後、お絵描き活動への参加である。生徒たちがあらかじめ準備した白黒の線画に絵具やクレヨンで色付けする作業を共同で行うこと。最初それがどういう着想の絵なのか分からなくてとまどった。同じ室内で筆で墨書するよう促され、これは先ほどのT君が活躍した。とうか活躍させられた。

次に校長に案内され、体操の見学も束の間で、卓球教室へいざなわれた。この途中私は大勢の男子児童につかまり、彼らが何か話したがうりそうだったので、仕方なく“你们几年級？”（君たち何年生？）と尋ねたら一斉に“四年級！”との答が返ってきた。次の質問を出せばよかったのだが、うまく後が続かず、先生が来て生徒たちを引きはがしてくれた。もっと、何の学科が好きとか、名前を聞いたりしておけばよかったと思ったが後の祭り。

卓球ではあまりうまい生徒はやっていなかった。当方で活躍したのはスマッシュを愛用した高見副代表と、昔中学校で卓球を学んだHさんであった。

以上で同心を少し取り戻した“交流”は終了。

夕食の最後に高見さんから、故小渕首相が大同での植樹活動に話に大変感動されたことを伺い、当方もジーンときた。12年前初めてこのツアーに参加した際、大雑把な話として伺ったような気がしたが、今回改めて細部の話を聞いてより深く心を打たれた。ただ、あまり深酒をすると早死するという例を私の昔の上司に見ているので、適度にとどめておかれるよう望みます。

●4月17日（火）晴、最高気温 27℃

【タカタ記】

まず余談を二つ。一つは一昨日、訪問の西古堡で買った酢を密閉して日本に持ち帰るた

め、輪ゴムを探した。ホテルのフロントで「橡皮圈」と言ってみただけどさっぱり通じず、通訳の劉さんのヘルプで「皮筋儿」をゲットできた。二つめは朝市からの帰り、近道をしようとして地下駐車場に下りて行ったところ、結局そこは隣接するマンション用とわかり、とんだ回り道となってしまった。

さて、今日は行事が盛り沢山、適当に端折りつつ、印象に残った部分を記載する。

09:00 にホテルを出発、すぐに壺流河玉壺湿地公園に到着。ここで蔚州郷土樹木園の起工式を行った後、植樹を開始。昨日同様すでに穴は掘ってくれており、それらに柳・ハンノキ・ニレ・シモツケなどを植えていく。どれをどこに配置するかはあらかじめ決まっていて、すべて根がむき出しだったのと、特に柳は枝のない“棍棒”状態だったのとで作業は非常に順調。総本数は不明ながら、約 50 分で完了してしまった。(参考：昨日の植樹は 171 本)

昼食までの間、隣接する国家湿地公園を散策、ここは将来地形に手を入れて、水面・低湿地・小高い丘などが緩やかに変化して多様な動植物を育める公園にする予定とのこと。

戻る道すがらの池では釣り人が糸を垂れ、カイツブリらしきのが潜ったりしており、それなりの生態系が形成されつつある様子。

昼食では最後に韃靼(ダツタン)ソバが登場、これは食感がすばらしかった。

午後は蔚州古城めぐり、行きと帰りに車を利用した以外は徒歩で、最初に釈迦寺を見学。天王殿に安置されていた釈迦像、両側の文殊菩薩像・普賢菩薩像、および大雄宝殿の臥仏像はいずれも文革時に破壊されており、あの嵐のような時代の残り香を感じた。臥仏像のほうには複製品が安置されているが、紫檀製のオリジナルが燃やされた時には城中にあの香りが立ち込めたとのこと。

釈迦寺からはぶらぶらと、私の専門である電気自転車(スクータ)の解説を時折しながら南安寺塔を通り過ぎ、蔚州署へ。ここはイミテーションのためか印象が薄く、唯一気になったのは“灰色レンガの製法”のみ。続いて城内の中心に位置する鼓楼に登る。本来は時を知らせるための施設で、外敵の来襲を告げる機能もあったとのこと。最後に北門の代わりに存在する玉皇閣にたどり着いた頃には皆さんやお疲れ気味。それでもなんとか上まで登ってみると午前中に植樹したあたりや周囲に続く城壁が見渡せてリフレッシュできた。

玉皇閣入口の碑文にあった「万里の長城は第一の奇跡、蔚州古城は第二の奇跡」について、この後半の理由を劉さんを介して聞いた結果は次の通り。

- 1) 当地出身の宦官であった王振は、皇帝の権限を上回るほどの“宦官専権”を持って“土木の変”を起こし、蔚州のために 800 余の砦を建設
- 2) これらにより蔚州は文化財保護の最重要県の一つとなった
- 3) 双耳舞台や穿心戲台(“天下第一堡”劇場のように中央を馬や羊が駆け抜けられる舞台)は当地独特。

今日は午前中よく働き、午後はよく歩き、よく食べよく飲んで皆さん快眠されるはず。隣では某君が安らかなイビキをかいている。

【岡和希記】

植樹作業の 2 日目の朝。連日たくさんのおいしいものをいただいているのでお腹が重い…。加えて、植樹初日の作業のおかげで、適度に筋肉痛。それでも目覚めは悪くない。軽い朝ごはんを食べてホテル周辺の散歩へ。

大きな公園の中ではバドミントン、ジェンズ(足で羽根を蹴るやつ)、カードゲームに興

じるたくさんの人。一番目を引くのは大勢でダンスをしている女性集団。「朝から元気だなー」と思うのと同時に「平日なのに仕事や学校は？」と思う。日本の朝でもこれくらいの余裕は必要なのかもしれない。

今日の植樹は壺流河の近く、玉壺湿地公園の一画、蔚州郷土樹木園で実施。実は直前になって諸々の事情でフィールドが変更になったようだが、それでも地元の人たちは朝から準備をしてくれており、レンガなどたくさん埋まっている土地にツルハシで穴を開けてくれていた。

式典を経て植樹作業を開始。ここでも地元の人たちが率先して黙々と作業を進めてくれたおかげでだいぶ早く終了。この土地に緑を復活させたいと願っていることが伝わってきた。郷土樹木園はまだまだ広くあと3年をかけて様々な木を植えて標本園にするとのこと。豊かな森が育って蔚州全土から人が集まるような憩いの場になってほしい。そのころにまた戻って自分の目で見たい。

昼食後に軽い昼寝を取って市内観光へ。蔚州古城を巡る。元の時代から残る寺、明・清の時代の役所など様々な文化遺産を見て回る。こういった場所を訪れると毎度思うが、もっと歴史の勉強しておくべきだったと。元の頃の大仏が文化大革命のときに盗まれて2000年に入ってから塔の地下室で見つかるなど、歴史的な背景をもっと知っていればそのダイナミクスを感じられたのに。古城を巡る旅は徒歩で現在の街を通りながらであった。古い城壁に囲まれた街ではごく普通の生活があって、現代のテクノロジーがある。古くはタイコで連絡を取り、馬で移動していた街で、スマホを誰もが持ち、最新の電動バイクが行き交う。非連続のようだけど同じ場所で連続的に人の生活は変わっていくものだと実感した。

それにしても今回のツアーで一緒させていただいている皆さんのバイタリティには感嘆まくりです。自分も常に新しいことに飛び込み、学ぶ姿勢を忘れてはいけない。そのことを思い出すためにも、またこの地を訪れたい。

● 4月18日（水）晴

【鶴田惇記】

今日はお客さんが多いのだろうか？ 朝ごはんが豪華。香椿の炒めもの、麺が3種類、茶鶏蛋、etc. すっかり定番となった糊糊（蔚州コーヒ）とともに美味しくいただく。

市場では黒枸杞（黒いクコ）を入手。お茶にすると見事な青色になる。味はそれほどのインパクトなし。薄いのかな？ 日本に戻ったら濃度を研究しよう。

午前中は切り絵見学と市場見学。焦氏剪纸有限公司にお邪魔する。細かく切り抜かれた髭を見せていただきながら、これができるようになるには30年かかると紹介していただく。10代から親の仕事の手伝いで始め、40代が最盛期。50代になると視力の低下で実力も落ちるとのこと。剪纸に使う刀は手づくり。自転車のタイヤのスポークから作られている。日本製がよいらしい。また康熙帝が書いたとされる“福”を剪纸で製作したものの解説をしていただいた。「多田、多子、多才、寿、福×365」何とも欲張りな“福”である。

その後、製作現場のおばちゃんからお話をうかがう。切り抜き2人、色塗り2人で、1人ずつに仕事歴を聞いてみたところ、切り抜きのみ10年、色塗りのみ10年であった。色塗りでは同じ色でも濃さの異なるものを用意して塗り分け、濃淡を出していた。色塗りもまた一人前になるには30年かかる世界なのかもしれない。

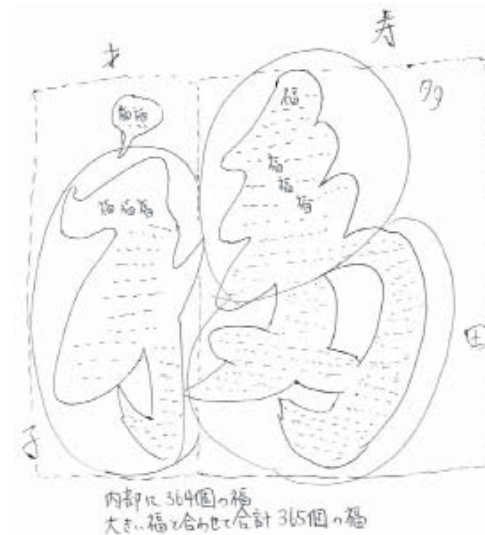
方言が強くてあまり会話はできなかったが、日本人が来たのを珍しがって色々話しかけてくれた。数日間一緒に仕事をし、溶け込んでみたいと思った。

その後、蔚県の特産物を扱うお店へ行く。通訳の劉さんが乾燥いちじくをおいしそうに食べているのが印象的だった。糊糊のもとを購入した。魏さんから水で溶かして煮詰めるのがコツと教えてもらった。はじめから熱湯に入れるのはよくないらしい。

柳さんセレクト（ここ数日のメニューの中で、日本人の反応がよかったもの）のお昼をいただき、北京へ向かう。今日の午後から合流する高田直俊先生にお会いできなかったのは残念。どんな植物園になるのか。構想を聞く日が楽しみである。

北京で1時間弱の渋滞にはまるものの無事にホテルに到着。王部長との再会を果たし、夕食をいただく。蔚県に比べて味が濃く、肉が多い。蔚県の糊糊が飲みたくなった。王部長は気さくに最近の国際協力の話をしてくださった。色々な国との付き合い方の話では、日本人メンバーも多く話をもっていて、いつもながらGENメンバーの経験値の高さを感じた。

GENの中国での活動に参加するのは5回目であったが、今回も得られるものが多かった。蔚県の方々にもまた会いたい。



【山本順子記】

今日で蔚県での4回目の朝。4回目の晴。

各自いつものようにホテルでバイキングの朝食後、9時ロビーに集合して最後の見学地、切り絵の村に向かう。10分で村に到着。ここの切り絵は2009年に世界無形文化遺産に登録されている。

最初に入ったのは焦氏が3代にわたって営んでいる工房で、作品とともに製作しているところも見学した。この間の一番大きな変化は彫刻刀の改革といわれた。以前は窓花といわれる窓に貼りつけるかざりが主だったが、現在は毛沢東のような人物、風景、掛軸など多彩になっている。何枚もの切り絵を重ねてつくられているものもあり、芸術的な面を追及していた。

工房では刀を使う2人と彩色を担当する3人の女性がいた。どの人もだいたい10年位続けているとのこと。切り絵のデザインに10年ほど前からパソコンを使っている。ただもちろん、パソコンで全てできるということではない。

現在の焦氏3兄弟は10代から生活のため切り絵を始めたが、彼らの子どもは学校に行くことを優先している。いずれは後を継ぐだろうということだが、30年をこえる経験が必要となるような“技”を継ぐのは厳しくなるかもしれないと思った。一方で切り絵村には20～30の工房、店がずらっと並んでいるが、人がいない！ 切り絵は中国全国で販売するにしても、観光客が少なすぎ、先行きが心配だ。

2軒目は販売が重点の店。3軒目は大通りに面した土産物店で、どの店でも10元からいろ

いる揃っていて、購入するものを選ぶのを楽しんだ。

その後杏子の種、干し無花果等を置いている店で買い物を楽しんで、ホテルに帰着。

1時半、北京に向けて出発（前中さん、高見さんは居残り）。来たときのような交通渋滞もなく、時間通りにホテル到着かと思ったが、北京に入って夕方の帰宅時のラッシュにはまりしばらくノロノロ運転。18:40 到着。

19:00 より王さん（高見さんと 1992 年に知り合う）と共に今回のツアー最後の晚餐。王さんの日本語はとてもすばらしかった。その後、有志は本屋さんに出かけていった。これで本日終了。明日はいよいよ最終日！

・植樹時の感想

今回の植樹の段取り

木を植える位置に現地の人々が前もって掘った穴に苗木を“ドン”と置いて安定させる！列にきちんと並んでいるかと垂直になっているのを確認後、穴の横にある土をシャベルで穴に入れる。この入れ始めるタイミングが、現地の人々の顔を見て、OK？と手ぶりで聞くと、OK と笑顔で返事。このやりとりが結構楽しかった。

● 4月19日 晴（薄曇り）

【山本隆明記】

朝食後に朝陽公園を散歩しようと朝一番 6時半に一階の食堂に行ったが、何かの手違いで朝食無しの宿泊客になっていて中に入れなかった。東川さんに連絡を取ってもらい、結局 7時過ぎに朝食が食べられるようになった。

7時40分から我々夫婦、今田さんの3人でホテルを出発。歩いて10分ほどで朝陽公園に着く。61歳以上半額割引の一人2.5円で入場。中に大きな池のある公園で、名前は分からないけど綺麗な花が咲いている樹木も多く、蔚県では芽吹いたばかりの柳や楊もここでは一人前の葉になっている。樹木が多いせいか公園はあたかも森のようで、どこまで広がっているのかも分からないくらいだ。有料なので？ダンスをしている集団もなく、心落ち着く静かな公園である。時間が無いので20分くらい散歩してホテルに戻ると既に8時40分。急いで荷物の最終整理をする。

9時10分ホテル出発、北京空港に向かう。交通渋滞もなく、発券、出国、通関手続きも順調。あとは13時50分の出発を待つばかり。搭乗口近くの自動販売機は、故障していて販売中止、お札が入らない、お札は入るけども物が出てこない。4台目でやっとミネラルウォーターが買えた。最終日には何かが起こるというジンクスは、今回は朝食と自販機の極小トラブルで何とかクリア。めでたしめでたしと思ったが、“豈図らんや”なのだ。深圳航空の飛行機の到着が遅れに遅れ、北京空港出発が夜11時20分、関空に着いたのはなんと翌朝3時20分。大どんでん返しであった。

降って湧いたようなトラブル。再入国、繰り返されるホテルでの待機と移動、夕食、再搭乗手続き、再出国、再通関、搭乗口までの駆け足。予期せぬ未経験の出来事にただおろおろ、うろろするばかりの4匹の羊と紛れ込んだ大阪の子羊松田さんを救ったのは、我々がタカタさんであった。この経過についてはタカタさん担当の日誌に詳しく記されていると思うので割愛するが（と言うか、私は狼狽して時刻などのメモも取っていなかったし、カウンターでの交渉内容も分からなかったのではあるが）、刻々変わる状況下で、これまでの中国での

豊富な経験を活かし、的確に事態を把握し、果断に必要な諸手続きを行い、5匹の羊を無事日本に連れて帰って来てくれたのである。この獅子奮迅の働きをなされたタカタさんに対して、私は、ここにその名をゴシック体の大文字で記し、感謝の念を表したいと思う。

『**タカタ**さん、本当にありがとうございました。』

- 今回のツアーを終わるにあたり、私の感じたことを以下の何点かにまとめてみた。
- 新たな拠点の起工式に参加でき、植樹も比較的沢山できたことがとても嬉しく、感謝している。
 - 小学校見学では中国の教育の発展状況の一面を窺い知ることができ、たいへん良かった。
 - 蔚県の共青团のスタッフや案内の劉さん、運転手の魏さん、それに一緒に植樹をおこなった農民や労働者の方々と親しく交流できたのも、これもまたとても楽しかった。
 - 春の黄土高原を見られたこと。蔚県の歴史と文化に触れることができたこと。これらもたいへん勉強になった。
 - 今回は参加人数が少なかったけれど、みな個性的な方々ばかりで、とても刺激的だった。
 - 前中代表、高見副代表、東川事務局長、中国側のスタッフ、一緒に植樹した方々、そしてツアーの団員の皆様全てに、感謝したいと思う。『楽しいツアー、ありがとうございました。』

【タカタ記】

東京方面へ帰るお三方とは昨夜一旦バイバイしたが、朝食後、ちょうど彼らのチェックアウトに間に合い、“またいつか地球の上で…”と再会を期した。実際には彼らのフライトのほうの後なんやけど、T君が留学した大学に立ち寄るとのこと。

我々関空組のチェックアウトの際には、支払いの件で若干の行き違いがあり、劉さんの到着によって解決した。簡単な問題なら私の拙い漢語でもなんとかなるものの、ややこしくなるとお手上げ。

空港へ向かうバスが傑作で、客は劉さんを含めて6人なのに定員50人の大型が来た。空港から別の大人数グループが利用するのも…。詳細は不明。所要35分で空港着。

劉さんの付き添いでチェックインの列に並んでしばらくすると、彼女が午後から通訳で寧夏に同行するグループから「もう着いた」との連絡があり、慌ててそちらへ飛んでいった。

チェックイン所要時間は19分、その後C. I. Q. (税関・出国・検疫)通過に30分を要した。空港内の物価はおしなべて高く、特に出国後にはほぼ2倍ないしそれ以上となる。

搭乗ゲートはE57でバス利用、定刻09:30発の香港行が約2時間遅れで、それが出るまではゴッタ返していた。

さて、帰国フライト中の出来事が特にあれば記載することにして、総括的な感想を書いておく。

まずは、GENの皆様が長年築き上げた人脈と信頼関係により、今回のツアーは万事非常に順調だった(天候も、関係者のどなたかが調整したのかもしれない)。おかげさまで“トラブルを楽しんでやろう”と思っていたのが(もちろん良い意味で)裏切られた。

唯一、蔚県までの往路移動に少し時間がかかったけれどもそれによって参加メンバーに“*That's China*”の心構えができたものと思う。

次に、“同じように周りが見えていても、人によって見るものがまったく違う”という事実を改めて思い知らされた。

前中先生、高見先生、東川さんは当然ながら植物に目が行き、私はシゴト柄二輪車に注目してしまう。歴史好きのご夫妻は名所旧跡や地形に…といった具合。各メンバーがこれまで気にしなかったもののお話を聞き、それぞれの見識を広げる、というのもこのツアーの良さだろう。

…とここまで書いたところで弁当が配られて、やや怪しい雰囲気が漂い始め、本来順番が後の羽田行搭乗が先に始まってしまい、ついにT君をゲートに見送る羽目となった。

なにやらそのうちに係員の先導でゾロゾロと移動するグループが居るので、我々も遅れてはならじとついていったところ、出国検査場で出国印に取消スタンプを押して再度中国入国。深圳航空カウンターへ行って確認したら「取消

(欠航)ではなく遅延」だそうで荷物は預けたままバスに乗って近くのビジネスホテルで暫時休憩。

やがて部屋に電話があり、「10分後にロビーへ…」と言われて6人(後述)でパスポートを返してもらい、ホテルのシャトルバスで空港へ。ところが深圳航空の值班カウンターに行ってみると、どうもそれらしい動きがなく、「まだ時間未定、ホテルにも連絡していない。もう一度戻って待機してくれ」と。係員が呼んでくれたシャトルバスですごくと逆戻り。エエカゲンな情報で皆さんを引っ張りまわしてしまい、申し訳なかった。

ホテルで食券(6人でMAX150RMB)を受け取って、とにもかくにも晩飯はゲットできた。弁当配布以後、搭乗客全員への状況説明は皆無。さてこれはいよいよ泊まりか、と覚悟してシャワーを浴びかけたところへまた電話で「あんたらのフライトが飛びそう」、今度は念のためロビーへ確認しに行き、間違ったと分かった。さあ空港行きのシャトルバスは我先に乗ろうとする人々で混乱、我々6人はただ傍観するのみ。さりげなく場所取りして、3台目のバスになんとか全員乗ることができた。

バスに乗る前には「HカウンターならどこでもOK」と聞いており、そのHで長い列に付き、いざチェックイン…と思ったら「あっちの值班カウンターへ行け」。「並んだ時間を返せ！」と心の中で叫びつつそっちへ行くと、意外なほど簡単にボーディングパスと遅延証明(旅行保険申請用)を発行してくれた。

搭乗券入手が22:08頃で、券を見れば搭乗時間は22:30である。「えらいこっちゃ！」とばかり、小走りにC.I.Q.へ向かい、「時間がないから」と頼んで優先窓口を通してもらって、手続き完了は22:32だった。

ここから前と同じE57ゲートへはちょっとした距離があり、また急ぎ足でやっと到着。ボードを見ると搭乗は23:00と表示。相当おちよくられた印象だった。

やっと飛行機に乗れてプッシュバックが始まったのは中国時間で23:30、長い長いドタバタの一日でした。

上記で6人と書いたのは、ゲートで弁当を受け取った頃に、傍で不安そうにたたずむ女性を見て声をかけると「一人で大阪へ帰るのに中国語はさっぱり」というので、以後行動を共にしたため。



機内ではおおむね消灯されていて、さすがに機内食を配るときには点灯した。「夜中だから…」と機内食を省略すると、用意した分がほぼすべて廃棄となってしまうから、止むを得ないだろう。

離陸が 00:42 (以後日本時間)、関空の滑走路 06R への着陸は 03:03。したがってフライトタイムは 141 分、エンジンストップは 03:09 だった。

到着した南 31 ゲートでは、折り返し北京へ戻る ZH9056 便の乗客がかなりの人数待機しており、こちらの皆さんもいろいろドタバタがあったものと推測。業務上とはいえ、CIQ の職員もそれぞれ数名ずつ残ってくれており、ありがたいことである。地方空港だと、こんな場合要員の手配ができないこともあると聞く。通関完了は 03:34 だった。

関西空港駅からの鉄道始発は南海が 05:45、JR が 05:50、それまでの間静かで空いたスペースに場所をとって休憩。24hr 営業のコンビニが開いており、皆さん日本へ戻ったと実感されたはず。

今田さんは南海+近鉄で名古屋へ、他のメンバーは JR 直通快速で大阪方面へ、それぞれの家路についた。

今日(?) の日誌の中で「非常に順調」という前言は訂正、私のおそらく 137 回目になる中国渡航歴で、取消スタンプ有りの出国印は初めて。お金で買えない得がたい経験をさせてもらった。おおきにです。

この記録は、緑の地球ネットワーク 2018 年春の黄土高原スタディツアーに参加したみなさんがツアー中交代でつけた日誌と、一部参加者より事後に寄せられた手記をまとめたものです。一部の漢字・仮名遣いや句読点の使い方、改行の仕方、固有名詞の誤記等改めた部分もありますが、文章表現は原文のままです。ただし、簡体字(中国の略式漢字)は編集の便宜上できるかぎり相当する日本の漢字に改めました。

2018 年 7 月
緑の地球ネットワーク

